

災害訓練と実災害における災害被害状況報告システムの 入力状況についての検証

1. 研究の対象

2017年7月29日の災害訓練 2018年6月18日の大阪北部を震源地とした地震の際に災害被害状況システムに入力を行った30病棟と病棟以外の39部署の病院職員の方。

2. 研究目的・方法

2017年から導入した電子カルテからの被害状況報告システムにおいて、2017年7月29日の災害訓練と2018年6月18日の実際の災害で、どの程度の時間的、内容的に乖離があったのかを検証し今後の課題を明らかにすることです。

研究期間は2018年12月5日～2019年3月20日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

災害被害状況報告システムに入力された①発災から第1報入力の有無②発災から第1報入力までの時間 ③第2報入力の有無④第1報入力から第2報入力までの時間 ⑤第1報、第2報それぞれについて災害被害状況報告の項目である職員状況、患者状況、病床数把握、火災発生、通信・ライフライン、医療設備、手術状況、入力者の職種について入力の有無⑥災害後のアンケート等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも職務上に不利益が生じることはありません。

大阪市都島区都島本通 2-13-22 TEL06-6929-1221 (代)
地方独立行政法人大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センター
ER・外傷センター
研究責任者：川口 なぎさ